

(再掲) 2019年4月1日 (月) 朝のうちは晴れ、新元号発表「令和」
『堀田善衛全集』見なおす試み

堀田善衛全集(筑摩書房 1974年6月20日発刊開始)



2020年11月2日(月) 雨

早朝から曇り、そのうち雨。一昨日の土曜から昨日午後にかけてよく晴れた、暖かかった。満月もきれいだった。今日の雨が上がれば、ぐっと冷えるはず。季節は晩秋、7日は立冬。

– 彼は今ごろ喜んでいる? –

昨夜はいつもより早寝したので、「大阪都構想」の結果は知らなかつた。朝刊を見て、おおー。そうですか、「反対」でしたか。「コロナ」や知事の活躍で今回は「賛成」?とチラッと思ったが。

先週、中之島へ行く用事があった。市役所の南門前を通りかかると、道路の端から市役所にむかって拡声器で何か言っている人がいた。近く前から、ちょっと変わった風貌の人に見えた。

赤と黒のタータンチェックのロングジャケットのようなものを、中背細身の体にまとい、上げ底ヒール10cmほどのブーツを履いて、頭には黒くて縁の広い帽子を深くかぶり、口元に拡声器をあてているが、声はけつして張り上げず、つぶやくように静かに市役所へ声をあげている。

一時間半ほどして帰りにまた前を通って、えっ? 往きでは晩年の「忌野清志郎」みたいに見えた。でも、若い人だった。たぶん20代半ば。あらためて声に耳をそばだてる。ほとんどつまることなく話が運び、市長をけなしつつ、職員たちには労いの言葉。

たった1人の抗議活動。それを提唱する人はいるが、実践する人は少ない。声を張り上げないので、「邪魔」な感じがしない。あたりの空気をこわさない。さて彼は今ごろ昨日の結果によろこんでいるだろうか、達成感にひたっているだろうか。それにしても、彼は何者か。

2020年11月9日(月) 曇↔晴

昨日の予報では晴マーク一色だった。でも雲が多い。昨日一昨日は気温が高かった。今朝もそれほど寒くない。紅葉もすすんできた。キモチが外へ外へと向く秋本番。

— 希望をもつ —

まずはバイデン氏が勝利宣言をした。これほど世界が見守った選挙もなかったのではないか。現大統領はまだ悪あがきをしそうだが、スタッフの中には早々に職探しを始める人がいるとか。

今回の結果、さてこの先どういう展開が待ちうけているだろう。現大統領をまもなく「万事休す」のはず、でも支持者たちの中の過激集団がどう出るか、それが気になる。

バイデン氏が勝利宣言で力をこめて語った「一つのアメリカ」へのアクション、それを阻む動きは容易に想像できる。これから舵取りはかなり多難。でも学習能力の高い国というから、希望をもつをしよう。

希望をもつといえば、混沌とした世界の動きではあるけど、知る人と知るカタチで、地域の人々や環境のためにユニークで地道な活動や事業をしている人がいる、プロジェクトがある。

時々そういう人たちの存在を知って、この世も捨てたものじゃないと思う。そこで自ずと、わたしは何をしているだろうと問うことになる。彼らとはまた違うカタチでそうあるよう努めている、と少し自負するのでした。

2020年11月10日(火) M×A×0展示会

元受講者の方から展示会の案内が届いた。昨年に続き、今年も開催。“がんばっているなあ”的感。開催場所をみると、なんとLEE'Sの最初の事務所があったすぐ近く、南船場4丁目。いつも前をよく通っていた。

久し「ぶりに歩いてみたが、ずいぶん雰囲気は変わっていた。それでもユニークなショップが今の点在。会場の「オーガニックスペース」へ入るのは初めて。とにかく目立つ建物なので、すぐわかる。

展示会は合同展、見本市のようでもある。夕方の時間だったので、人は少なく、おかげでしばし話ができた。今年を境にビジネスの環境は「新しい常態」を創りだしていく。孤軍奮闘はまだ続くでしょうが、自分の信じるところを根気よく、丁寧に発信して、進んでいけばいいと励ますのでした。



2020年11月13日(金) 曇り

今朝は曇っている。少し気温はあがり、あまり寒くない。明日は20℃になるらしい。今年は厳冬の予想だから、行楽は今のうち、という気もするが、「コロナ感染」は自粛期間中より多い。一旦緩めた緊張感をとり戻すのは難しい、とにかく個人で要注意、要注意。

— am7:20駅ホーム 絵になる読書Lady —

朝型のレベルを「自粛」前から一段あげて、時には7時前に、いつもは7時すぎに事務所へ着いていた。その後少し緩め、7時半から8時の間になることも増えた。

そのときいつも中津駅ホームで見る読書する女性。中津駅は大規模なリニューアルを終えたばかり。ベンチはホーム中央の巨木のような円柱のまわりに設えられた。

巨木円柱を背に梅田方面を向いて座る。組んだ足の膝上に開くのはいつも単行本。細くのびた足の元はベージュの高いピンヒール。中背細身、小さな顔のヘアスタイルは高く上げたシニヨン。

とにかく目につく、絵になる。早い時間の駅ホームで本を読む理由は何かしらと気になる。仕事は外資系企業の秘書のような感じもする。会社へ行く前の朝の習慣か。

今後も見かけ続けたら、一度声をかけてみようかと思ってしまう。実際そうしたらどんな反応がかえってくるだろう。気味悪がられるか、あるいはすんなり応えてくれるか。たぶん、後者。

図書館司書の知人がいつか言っていた。「わたし、気付いたことがあります。わたしは本が好きだけど、本を読む人はもっと好き!」。言わんとすることがわかる気がします。

2020年11月18日(水) 晴↔曇

暖かい。かるく羽織るものがあれば十分。先週末から気温が高めで、出かけやすい。「コロナ」感染増加の要因になっているかもしれない。まだ超朝型を続けざるをない。

— 「過去のことは物語られねばならない」 —

視たいテレビも聴きたいラジオ番組も少ない。そこでこのところは京大のOCWを、動画ではあるが、愛聴している。講座やシンポ、トークイベントなど、バラエティーに富んでいて、他の大学に比べても充実している感。「ゴリラ」の総長のおかげか。

本当に勉強になる。ネットがあつてこそと言える。そして京大の風土か、先生たちは自分の専門外の知識が豊かさ。知のアンテナを張り巡らせている感じ。おもわずメモしたこと少なからず。

「歴史は物語られねばならない」(野家啓一)、『地球の洞察』(J・ベアード・キャリコット)、『あなたの子どもには自然が足りない』(リチャード・ループ)。どれも初めて知った。さっそく検索して図書館で本をあたつ

『物語の哲学』(野家啓一)の中に、『言語起源論』(J・G・ヘルダー)からの引用がある。

「人は現在のことは指し示せばよいが、過去のことは物語られねばならない」

冊子をまとめたり、『ひと言ひとり言』で語ったり、自分のやっていることはこれかと思った。

また、『魔の山』(トーマス・マン)の言葉も紹介されていた。

「物語の古さは日数をもって数えることができず、物語の上に積み重なった年齢は、地球の公転をもって数えることができないのである。一言でいえば、物語の過去の度合いは実は時間とは関係ないのである」

新しい知にふれるきっかけをもらって、京大OCWに感謝、感謝。

2020年11月24日(火) 晴

少しひんやりする。今日の大坂の最高気温は17度の予想。寒いほどまでではない。紅葉は今週、来週が見頃のよう。でも「コロナ」感染が増加。今年は近場でたのしむのがよさそう。

— 「記録」は現在、「印象」は未来 —

9月からの「ひと言ひとり言」は自業史のショートストーリー的なことを語ろうと進めてきた。すると自ずと人との出会いが話の核になる。日経の「私の履歴書」がそうであるように、人の履歴は人の出会いの履

今日の段階で音声データは30になった。それら全ての話は記録を確認するまでもなく記憶していること、印象として心身に刻まれたもの。

昨日の朝、ふと思った、記録は現在、印象は未来。20日の録音をした後、あらためて当時の記録を見直してみたとき、湧き上がる想いは、“いま現在”。ここに至ったというこの間への慈しみ。

記録せずとも心身が記憶している印象は、なぜそれほど印象に残っているか、その意味が未来になってわかる。少しずつ自身に開眼している、ある時点で、そうだったのかと気づく。

2016年にまとめた『自業おすすめ』の第二章の「〈自分ならでは〉の知り方」に書いた、記録せずとも記憶していることは、「わたしは何者か、わたしはどこへ行くのか」を解く鍵。

そこで、「印象」は未来を創るといえるかもしれないと思うのだった。

2020年11月30日(月) 晴

窓越しに陽がさしてきた。日の出時間がおそいので、晴れの知らせがおそい。この時期らしい気温、キリッとして、身がしまる。明日から12月、コロナで始まり、コロナで年超す2020年の様相。

—『目の前のことにつとめること』—

ふと思い出していた人から数日後に便りが届く。そういうことがある。本当に久しぶりの人からメールがあった。立冬レターへの返信だった。

レターの記事を読んで、『いつの間にか今日明日のことにつとめること』自分に気づき、気をとりなおしたと書いてあった。

レターには俯瞰することの大ささを書いたのだったが、実際、目の前のことばかりにとらわれると、心が狭くなっている自分に気づく。

狭くなると、今すぐ何か面倒なことが起こるわけでもないのに、気持ちがよどみ、胸がざわつく。

すると、しだいに落ち着かなくなる。そんな自分に気づいて、ハッと我にわえることができれば問題ない。

ハッと我にかえる、そのきっかけは人それぞれ。ある程度自分に習慣づけることもできる。何か具体的な作業をするのも手。

立冬レターでその一つにあげたのが、『ビジネス×ライフ略系表』だった。おかげで気持ちが晴れたということだった、それは何より。

小さなことに目を向けることも大事だが、それも視野を広げ、どこのどの小さなことに目をむければ適切かを見た上でのこと。

そうすれば、大らかにも、きめ細かく、自分の道を進められると思う。それがまた誰かにためになる、という循環。これもSDGsに寄与?